



名文山集

完







如松軒のあまゝり武士はあつてふれく又なる  
 うまゝりいそり力ある物（机）  
 あらぬまのいそり志とてゆく志とてあつた  
 そゝりいそり力ある物（机）  
 して同志の人いそりあつた志とてあつた人  
 志とてあつた志とてあつた志とてあつた

けしきいそり力ある物（机）  
 うまゝりいそり力ある物（机）  
 志とてあつた志とてあつた志とてあつた  
 志とてあつた志とてあつた志とてあつた  
 志とてあつた志とてあつた志とてあつた  
 志とてあつた志とてあつた志とてあつた

采月庵のあまゝり  
 女評





如紫柳科のあまゝち武士はかゝるもれく又なるも  
ろもろのいそひを以て力ある物（机）等もあつて  
あつたぬまの人もあつて你く志すところもあつた  
そんやのの輩はあつた（さ）の（と）糸く（ぬ）り  
して同志の人（よ）あつた（ん）と（い）ふ（ま）は（ま）ん（ん）人  
み（あ）つ（た）ま（あ）ん（ん）志（す）（ま）つ（た）（ま）つ（た）（ま）つ（た）

わ（ら）む（し）（う）（ち）は（あ）の（り）を（ま）つ（た）（ま）つ（た）（ま）つ（た）  
（ま）つ（た）（ま）つ（た）（ま）つ（た）（ま）つ（た）（ま）つ（た）  
（ま）つ（た）（ま）つ（た）（ま）つ（た）（ま）つ（た）（ま）つ（た）  
（ま）つ（た）（ま）つ（た）（ま）つ（た）（ま）つ（た）（ま）つ（た）

采月庵のあじ  
如評

大和納言豊臣秀長御筆 文房舎所藏

正月七日之年越之秋迄のいふと云ふとんく

南無天満大自在天神

正月廿日

花のいそひ

秀長

かゝるく金うか







かゝる是年八月の末の田三反松妻

文房舎所藏

煙の并や 汝を 余子其角

香川其明藏

百力よ 無不七石 乃并 乃

女のとたけ

胸の梅 乃

美無

永

田中山陰

元

初

其豊納 孫坊

足地

孫

乃

臨河岸其明藏

山

乃

乃

清平所藏

入有也 松乃 拘規 籠



美無

永

田子山鏡の  
光

形

真書納

孫坊

夏柳

流

水

鹽河岸某所藏

水

水

水

靖亭所藏

入有也

柳規筆

靖亭所藏

眠

輝の水

靖亭所藏

本

法 采たるを言水  
海の音

通圖画像負松井某所藏

闇の

月夜

月夜

壺内栖鶴

紫

文

少



眼の目をわらわす  
源を来

輝の水

靖康所藏

本  
法  
采たるを  
海の音

通園出像負松井某所藏

闇のあは

壺内栖鶴

こころのこころ

采美あり

月夜

文好あり

角

少あり

暁一庵所藏

こころのこころ

吟

弦の響

光  
乃  
見  
相  
輝

影  
去  
来  
月  
光

一子庵所藏

美  
水  
年  
早  
花  
と  
海

杜年

鹽河岸某所藏

サ  
戸  
り  
み  
橋  
の  
水

海の音



こみきくしや梅の喰い  
弦の聲牙

光年乃見まぬ柳津

影の来さ卯月来

一斉庵所藏

美しうおの会さう也 廿年

水年早もたし海

鹽河岸某所藏

舟戸の波橋の波の酔 酔色

九屋某所藏

夜といふ神武のうさ其の意の意

文房居所藏

まをん 障子の 燃やう 蓮の信

随江合所藏

うねる心とてあま 柳の影

鹽河岸某所藏

指板の尾ね 柳の影



夜もいし能成ふうし其の美心也

文房居所藏

直心也 淨子也 見れ 燃ちし

随江合所藏

之終忠志 多母 如也 繁 しの花

富河岸某所藏

拈拈み 乃也 新 ねるる

芝香書某所藏

紫柳軒所藏

初午也 不白 林 世に花の妙 かの

物 世 新 ねるる

九岸某所藏

十のうむて

うにふぬ

し

うむて

根



初年也

~~~~~

~~~~~

林

世の花の姉

~~~~~

沾沾

九彦某所藏

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

文房公所藏

~~~~~

~~~~~

~~~~~

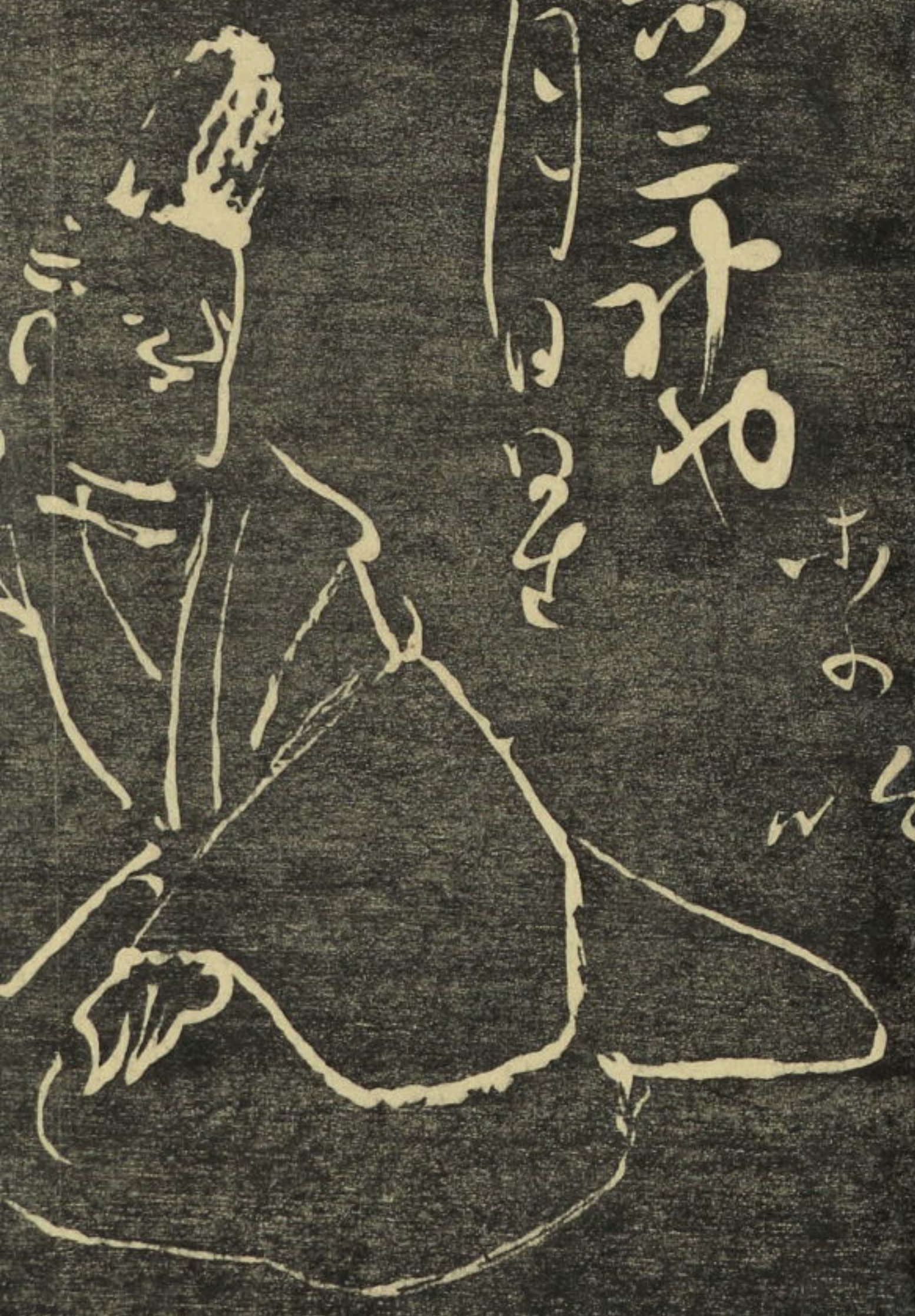
~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

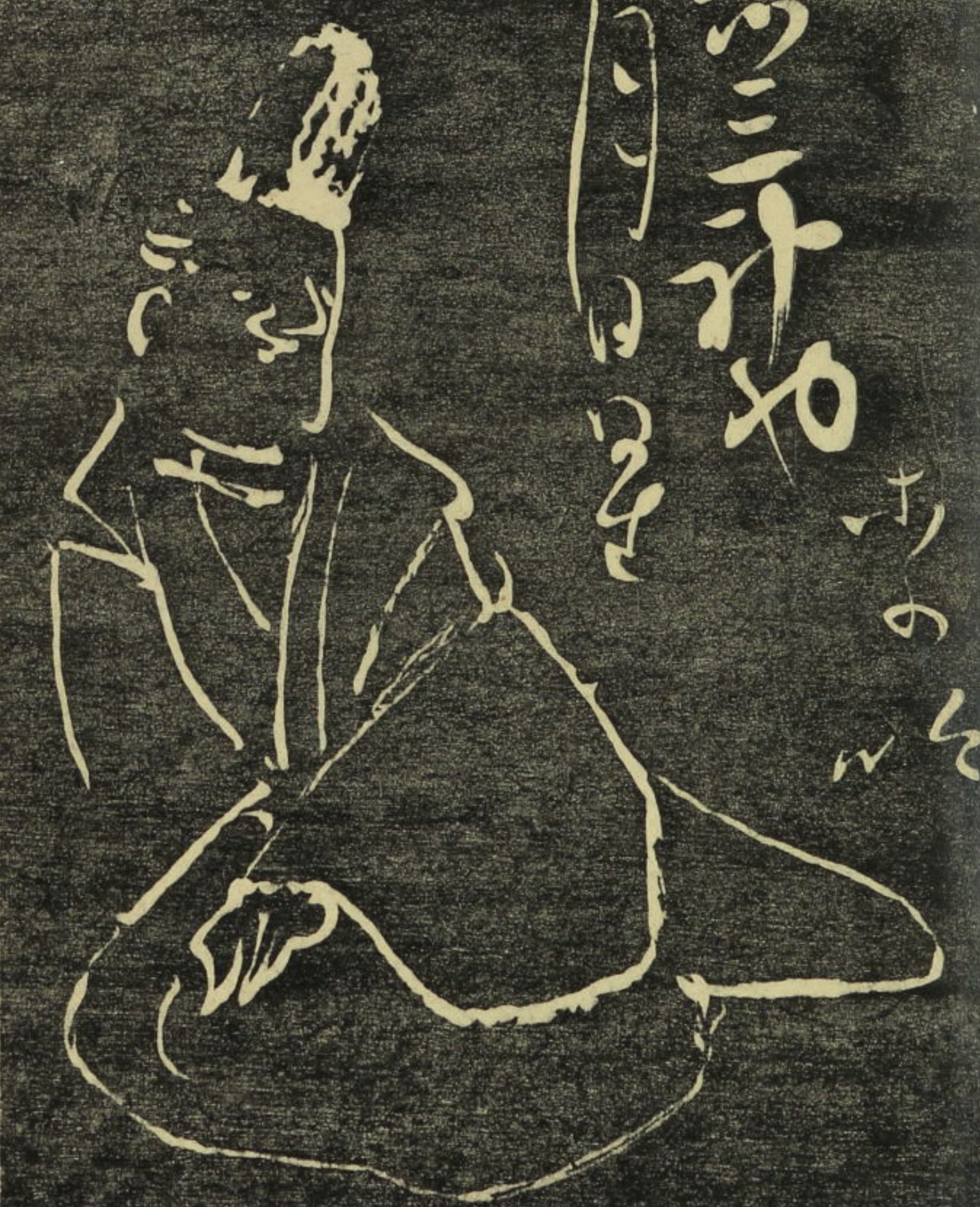




何と申すは此の松乃おと海  
朝と小舟のふりかへて  
朝と小舟のふりかへて

いふに  
いふに

いふに  
いふに  
いふに



人乃冠以言  
いふに

いふに  
いふに

いふに

いふに









松之亭所藏

三つ井

松之亭  
書



松之亭所藏

しんを記しりやうりく

川若岸一咲  
英七  
凡七

すし山の上のふしをいふ松之亭

菊画質

みふふのこ

あふれつ

野人の

海菊



松之亭外景藏

燕若岸

正長

かき免た承

柳一井

松之亭

松之亭

松之亭

松之亭

松之亭所藏

松之亭乃てまふりく

松之亭



みふらぬ



燕喜草

正衣

あふれ物

野人の

かき免た承

海あふ物

柳一糸

飯粒

おろし

おろし

おろし

木仙亭所藏

夕方乃て

おろし

香川某所藏

雪ふり乃

電河岸某所藏

元山

周如

おろし

香川某所藏

小産

おろし

昌平橋外某藏

新築

おろし

おろし



雪衣乃骨... 物の色... 衣者

富河岸某所藏

元山... 秋衣

とるは... 衣

國如也

香川某所藏

小... 衣

昌平橋外某藏

絲... 衣

七... 衣

衣

隨... 衣

心... 衣

神六

心... 衣

心... 衣

白... 衣

月

雪... 衣

竹... 衣

日... 衣

十... 衣

暑... 衣

年... 衣

小... 衣

命... 衣

柳... 衣

女... 衣

秋... 衣

心... 衣

心... 衣

心... 衣

心... 衣



いふこと

評六

いふこと

丹

いふこと

いふこと

いふこと

竹古玉  
三

いふこと

いふこと

いふこと

いふこと

小野

いふこと

柳

いふこと

いふこと

終宿庵所藏

いふこと

いふこと

いふこと

松井某所藏

いふこと

北枝

九屋某所藏

いふこと

心馨

いふこと

いふこと

いふこと



九尾草所藏

しつづく福  
又しつづく福  
北枝

回文 詠事のひるまじりて

心馨

流 音 蘇 耳 しく 心 の 楼 の

日 向 する あり 心 蘇 耳 心 蘇

心をこころとすのこころとす

心 蘇 耳

陶江合所藏

鶉 又 葉 の 楼 あり あり

唯 純

木仙亭所藏

伊 吹 あり あり あり  
津 の 梅 木 月

木原某所藏

えん 百 也

心 蘇 耳

心 蘇 耳

心 蘇 耳

一歌所藏

心 蘇 耳

心 蘇 耳

心 蘇 耳

心 蘇 耳



鴨之葉の穂よりわ

唯乾

木仙亭所藏

伊吹の梅 木月

柘原共所藏

一歌仙所藏

元百也

ついで花子

ちかかき

竹重

又花子

ちかかき

ついで

三年

老松

海客の松乃

治徳

松仙亭所藏

子乃松乃

ちかかき

治徳

笏之條所刻字  
句傳云蕉翁之



松仙亭所藏



老松

海内名松  
此松名曰  
老松乃  
名

子亦以心  
樹乃

一  
一  
一

唐

笏之條所刻字  
句傳云蕉翁之

手製亦匪人妻

水外鍾樓也今

為禪窟庵主人

家藏夫古器雖

之物之微足供

清玩况吟翁之

不製乎好古之

徒可不感愛乎

或摸之形將公

全



此物名曰蕉翁

同義

蕉翁之笏也



水不鍾機也今  
 為禪窟庵主人  
 家藏夫古器雖  
 之物之微足供  
 清玩况於翁之  
 不製乎好古之  
 徒可不感愛乎  
 或摸之形將公  
 於世於是乎託

端山樵夫識

百里書



此物之微足供清玩况於翁之不製乎好古之徒可不感愛乎或摸之形將公於世於是乎託

一水一月千水十月  
 月一水一月千水十月

袖了

衣月

素堂

昌平橋外某藏

插

許



端山樵夫識

百出書



長一尺三分半

一水一月千水十月  
月一古ことたしりてか  
月一とつのも

袖をつま

素堂

露を衣 月幾つ

昌平橋外某族

くまのくまの梅のけあうお梅も

十六

竹乃子倒るゝ親らむ光の多

三回

七利中納言輝元卿筆文房舎所蔵

巨象畫賛松井某所蔵

山松

株此

あまを

縁式

輝元

御代法一

時二河

水  
か  
天

露

秋巴

秋  
女  
息

念  
者  
枕

菊  
花  
露



竹乃子獨の親の心光の多

毛利中納言輝元卿筆文房合所藏

巨象畫賛松井某所藏

山松

煉此

あまの

縁式

輝元

御代法

時二河

北

露

秋色

秋好

念者

菊

慈童画像賛松井某所藏

一葉庵所藏

尾

湖中

追悼

一夜塚

菊

菊

一葉庵所藏

一葉庵所藏

甲

子

子乃

十庵

有

有

有

有



尾と云ふは、  
山松

山松

追悼  
茅花 城 軒 人

一夜 塚 孫  
尚句

梅原其新藏

梅原其新藏

甲 由 也

子 乃 啼

川

十庵

探 々 々

有 以

子

此 式 様 月 山 暮 夜 行 親 心

梅原其新藏

茶の 芳 也 子 乃 啼 川  
ひりう けむらの 欠 け

腰 也

梅原其新藏

梅原其新藏

一品

梅原其新藏

梅原其新藏



神... 式様も小篆を以て親也

正一巻所藏

茶の葉やすくさくハ  
ひらひらとほろもりの火ヨヨヨ

腰也

後信公より

輟久遠事井

一品

... 梅の... 孫

梅七郎

松之寺所藏

千葉某所藏一茶自画像

... 改

改

あのおとら一茶  
すくさくハ

ひいき目糸  
すくさくハ

松之寺所藏

... 茶本

大...

正一巻所藏

... 茶



く  
うらなむしわ

改

あのもちら 一茶  
すういふふ

ひいき目ふん

さくしん  
そらりり

松亭所藏

ゆきしん  
あはれ  
あはれ  
あはれ

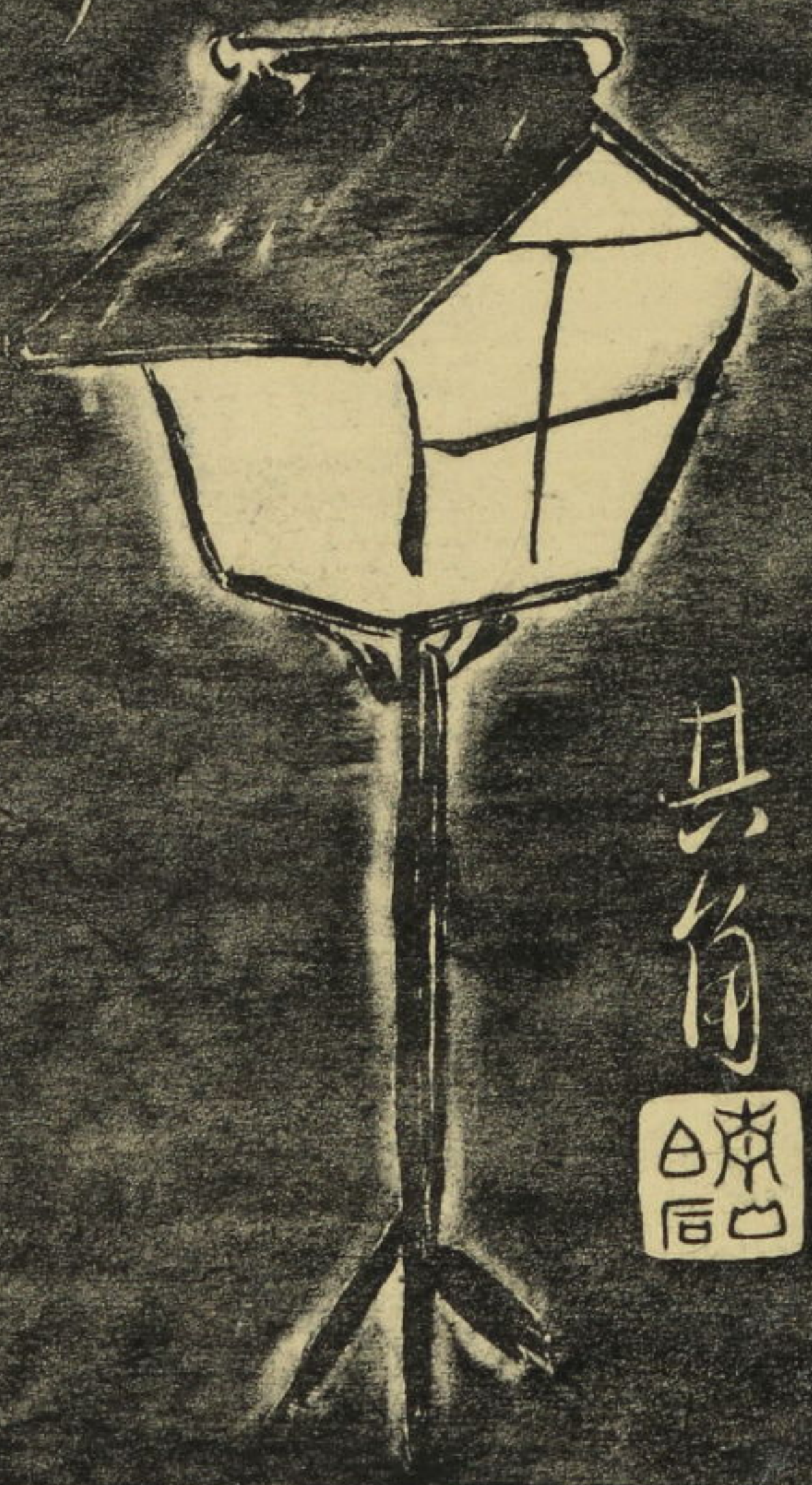
あはれ

松亭所藏

あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ

新古今原野屋三分四割書目分申自玉印

其角  
南  
印



あはれ  
あはれ

あはれ

あはれ

松亭所藏

あはれ  
あはれ  
あはれ

あはれ  
あはれ  
あはれ







皇清の如き即ち此の如き

ふいふと云ふ

横也

宋文の勸諭の如き

越人

字の如き中にもある水鏡の如き

會式

諸禮停止

出合遠近

但聲先

月義一句

又曰

兼食兼兼

あつたむらせ

し



定合遠

但聲耳先

月美一旬

又曰

廉食廉第

あつたおろせ

酒礼一及

事一なるに

芭蕉庵枕あつ書



東都閑月庵所藏

田の中北より

志まう

ふる



一のしん

子安の



も  
な

芭蕉庵枕あつ書



東都閑月庵所藏

田の中北より

志まう

ふる

一  
の  
ハ

子  
愛  
心



衣  
の  
あ  
ら  
わ  
い

さ  
き

大  
州

ち  
の  
こ  
を  
し  
て

存  
心  
も

つ  
く  
さ  
う  
く



中村某所藏

樵夫等  
う  
這  
入  
る  
魚

山  
を  
か  
ん  
十  
鳥

逸  
人



氏久の

意

文州

ちのうそい

存

つんぎく



中村某所藏

樵夫等、う這入る也  
山氣かんとく

逸人

中村某所藏

字く飛寸の、  
三著て、を音裁

雪山

中村某所藏

あつあつり、  
わろふつらん、

中村某所藏

朝の梅心の  
神、  
深々

竹、  
無、  
月空



字くも寸の

三著ては音裁

雪山

大房全百藏

あつあつうりしははくはてんふと母  
わらふたんふらうりぬん被

一松庵所藏

朝の梅心の

神話ふて 深々

竹花子やこや

無花 雲よ集

月空





此君堂所藏 蘇村筆

尊の身を正し  
初音日々

具用

くまの  
あまの  
あまの

山嵐

あまの

此君堂所藏







此君堂所藏

# 古詩

夕陽紅似火

夕陽紅似火

此君堂所藏

此君堂所藏 蘇村筆

賞の心を述は

初音日々

具之用

万々々々々々

万々々々 万々々々

此君堂所藏

山禽啼春蟋蟀吟秋豈其偏然哉亦以感於  
 内也苟有感於内也其發於外亦有不期而  
 然者矣其動於内即性也發於外即情也森  
 育羽蟲猶且不能不然况萬物之靈乎歌謠  
 以歡呻吟以愁欣而舞悲而誅肉詩三百只  
 以陰之也邪人之仙十有餘音而觸類應感  
 能宜其淫鬱而其事情若往々不少也彼家  
 廷成嚴之際以至中第第床之間皆有符其



不... (Calligraphy)

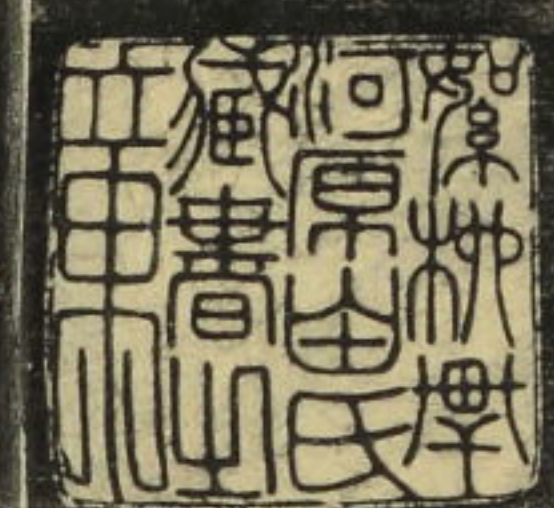
山禽... (Calligraphy)

山禽哢春蟋蟀吟秋豈其偈然我亦以感於內也苟有感於內也其發於外亦有不期而然者矣其動於內即性也發於外即情也蠢有羽蟲猶且不能不然况萬物之靈乎歌淫以歡呻吟以愁欣而舞悲而舞周詩三百足以證之也邠人之俗十有餘音而觸類應感能宣其淫鬱寫其事情者性不少也彼家廷成歲之際以至中冓第床之間皆有符其

性情之真者言人之所謂悲而不傷樂而不淫於是乎可見其一二也嗚呼後之君子無以麻糸而棄菅蒯

庚申春 用六藏

百里書



丹崖鑄



俳僊遺墨

折一帖

絮柳軒編

丹崖鑄

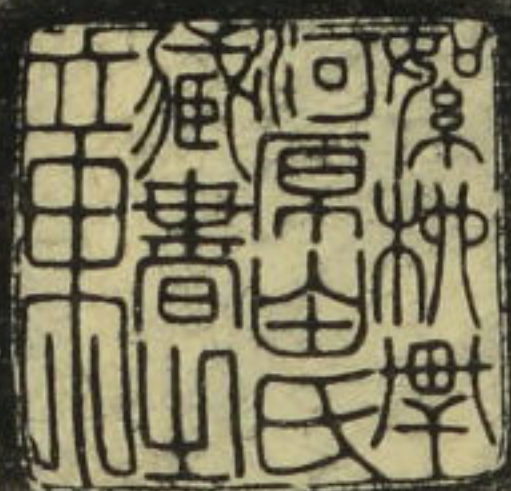


山禽呼春蟋蟀吟秋豈其倚於外亦有不期而然者矣其動於內即性也發於外即情也蠢有羽蟲猶且不能不然况萬物之靈乎歌謠以歡呻吟以愁欣而舞悲而舞肉詩三百足以證之也邠人之俗十有餘音而觸類應感能宣其淫鬱寫其事情者往；不少也彼家廷成歲之際以至中冓第床之間皆有行其性情之真者言人之所謂悲而不傷樂而不淫於是乎可見其一二也嗚呼後之君子無以麻糸而桑菅蒯

庚申春

用六識

百里書



丹崖鑄



天理本題簽

俳僂遺墨

折一帖

絮柳軒編

丹崖鑄





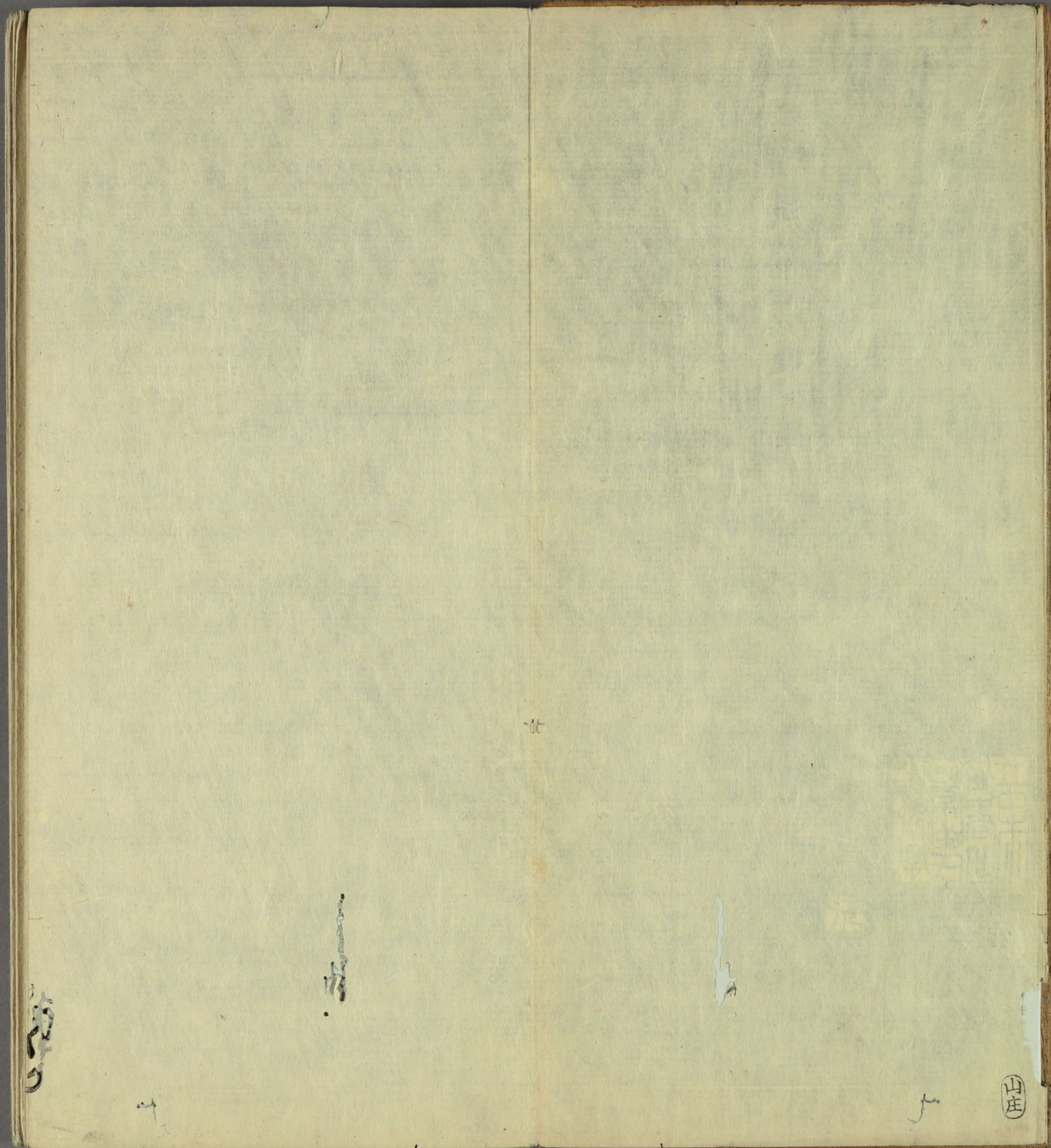


11

11

三平  
高子  
十力  
十力  
三平





2

...

山庄